

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		こどもプラス千歳教室				公表日	令和 8年 3月 19日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		からだを動かすスペース、座って遊ぶスペースを要望に合わせて確保できるように、調整をしています。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。		7		児童の人数に合わせた安全面の確保、人員配置の基準の両面を考え、日々の職員配置を適切にしています。	一人一人のスキルを向上させ、少ない人員でも安全にかつ楽しく過ごすような遊びを提供できるようにしていきます。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6	1	運動スペースと座って過ごすスペースを色のついたマットで分け、ルールを守って安全に過ごしていくことを伝えています。	発達状況によって体幹の面や、低緊張により上手くからだを動かせない児童のために玄関に手すりをつけることも必要。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7		毎朝・活動終了後の清掃を行い、清潔な環境を作れるように取り組んでいます。	トイレと洗面所が活動室と一体になっているため、支援の目が行き届きやすい反面、切り替えがしにくい環境ともいえます。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7		気持ちが落ち着かない時や崩れてしまった時に冷静になれるような部屋や環境は状況に応じて設けています。	情報を遮断してクールダウンができる環境をパーテーションやカーテンで区切ったり、部屋の使用用途も見直していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎日の打ち合わせで全員で意見を出したり情報共有をしながら日々の支援に活かせるよう取り組んでいます。	計画書の段階でのチェックをよりしっかりと行い、活動の意味合いやねらいを全体ではっきりとさせていくことが必要です。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表で出た保護者からの意見や疑問点を共有し、すぐにできることから改善に向けて取り組んでいます。	評価表の公表時期に限らず、常に保護者の方が疑問点等が出た時に迅速に対応できるように今後も意識していくことを心がけます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日々の打ち合わせの中で、業務にあたって困ったこと・疑問を伝える機会も設け、報連相を全体で行うようにしています。	改善するにあたり、新しいことを試みていく上での問題点や課題を洗い出し、極力簡略化して全体でできる仕組みを考えていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	第三者による評価は実施していません。	外部評価ではなく、第三者に相談しながら(個人情報に留意の上)助言をいただく、そういった仕組みを作ることも大切と感じます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		FC研修、市の児童発達支援センター主催の研修をできるだけ支援者全員で受講するようにしています。	研修を受けたことを活かしていくということを日々の支援の中でも意識できるように、支援状況に織り交ぜながら伝えていきます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		作成・公表は適切であると思います。	ホームページを確認していただくために周知していくこと等が必要と感じます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		面談実施と一緒に事前に聞き取りシートの記入もお願いし、支援状況と合わせながらアセスメントをとっていきます。	子どもの意思も尊重して保護者との面談ができるように、子ども本人の気持ちを中心に考えた計画作成も場合によって必要と感じます。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		支援の中で課題と感じる面の共有を支援者で行い、その他記録等も含めた共通理解のもと計画作成を行っています。	支援者一人一人の見立てを共有し、全体で支援の方向性を決め、計画作成にも活かしていくよう心がけていきます。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画を作成する上でミーティングの議題として出したり、記録の際にも計画目標を意識していくようにしています。	記録作成時に目標に沿って様子を支援者同士で共有したり、確認をしながら計画に沿った支援を今後も行っていきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		成長が見られている部分や普段と違う行動が見られた際には、活動中・翌日の振り返りの際に伝えていくようにしています。	ツールを用いたアセスメントは積極的に取り入れていないが、情報共有をし児童の行動面においてしっかりと共有していきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		5領域に基づいた支援、ご家族への助言等のサポートは日常的に支援者全体で行い、地域連携に関しては、公共施設で過ごす上でのルールを学んだりできる取り組みを活動内容の中に入れていきます(長期休み)。	今後は事業所移転もきっかけとし、事業所周辺との交流やイベント参加も療育活動の中に可能な範囲で取り入れ、より多くの方に事業所を知ってもらいながら、良好な関係性を作りたいと思います。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		日案を支援者一人一人で作成し、全員で改善点やより良い支援につながるよう話し合っています。	成長段階や年齢に合わせた活動内容を考え、児童の成長や変化につながるよう日案を作成・立案していきます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		月案作成時にあらゆる面で固定化しないように活動内容を考えています。	今後も支援者全体でチェック作業を行い、活動内容に偏りがないようにしていきます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		保護者のニーズ、必要な支援方法を考えた上で必要に応じた活動内容を計画のないように入れています。	児童の課題に合わせた計画を作成できるように今後も支援の振り返りを細部まで行っていけるように努めていきます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝の打ち合わせで、職員・児童の動きを確認しながら、活動に向けた準備を行っています。	長期休みは打ち合わせの時間がなかなかとれないこともありますが、共有の仕方考えながら全体で共有できるようにしていきます。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		毎朝の打ち合わせで、前日の支援についての振り返りを行い、支援者一人一人が報告を行っています。	今後もしっかりと打ち合わせ・振り返りの時間を設け、より良い支援にしていけるための改善点や反省を行っています。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		打ち合わせの中で出た報告事項をもとに、記録を整理したり、各々で気づいた点を共有しながら記録をとっています。	記録を見て伝わるように、支援者同士で記録のチェックを行い、様子が伝わるように必要に応じて修正を行っていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		モニタリングのタイミングだけでなく、日常的に支援で見えていることを支援者で確認しながら、計画見直しに活かしています。	保護者目線での目標、可能であれば児童ご本人の希望を取り入れ、適切に支援目標を決めながら計画作成を行っていきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者が支援会議には参加していますが、事前に支援者同士で情報共有をして報告事項を整理しています。	保育士・児童指導員も会議に参加し、関係機関との連携に深く関わっていくことも今後必要に応じて考えていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		千歳市としても関係機関を通して情報共有をしたり、相談支援専門員の方が仲介して連携がとれていると思います。	医療機関での検査結果等、日々の支援に直結していくことを少しでも早く情報として得られるように連携を図っていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		全てとはいえませんが、お互いの環境についての様子を共有したり、成長や変化についての情報交換をしています。	療育支援を行う立場から園での様子の聞き取りを可能な範囲で積極的に行ってい、支援に活かせるように働きかけていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		移行の際の情報共有は相談支援事業所や保護者を通して、情報共有をしているといった流れが多いと思います。	情報提供がしっかりとできるように準備をしておき、関係機関で情報共有ができるように尽力していきたいと思っています。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		児童発達支援センター主催の研修には事業所として積極的に参加しています。	研修報告書を作成し、受講したことを支援に活かしていけるように事業所内でも改めて研修内容を共有し、相互理解を深めていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		事業所とこども園で活動や交流する機会はありません。	交流という機会はないですが、こども園の見学や保育の様子を見て、支援に活かせることを増やしていきたいと思っています。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳やLINE、面談を通して保護者のニーズに合わせたツールや環境を整備し、共通理解できるように努めています。	伝えてもらうだけでなく、保護者とお互いに情報交換をし、それぞれに有益な情報となるように連携をしていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	研修の機会は設けていませんが、子育ての視点から困りごとがある際には、ご相談を受けたり、必要に応じ助言を行っています。	保護者向けの研修の案内が来た際には、お知らせをして参加してもらうことで、困りごとが緩和されるようにサポートしていきます。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		ご契約の際に一通りの説明は行い、支援プログラムや療育の内容に関しては見学の際にも説明を実施しています。	ご不明点があった時にいつでも説明ができるようにし、疑問に思ったまま不安にならないように対応していきたいと思っています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		モニタリングの際に、可能であればお子さんと話をした上で聴き取りシートの記入をお願いしております。	聴き取りシートをもとに面談でより深く詳しく情報が得られるように、改めて意向を確認していきたいと思っています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		面談の際に計画の説明を行いながら、説明の中で支援内容・活動での様子をお伝えしています。	引き続き面談の際に計画の説明を行い、日常の様子も共有しながら、同意をいただきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		モニタリングの面談・更新に関わらず面談のご希望には対応させていただき、悩みを相談していただけるようにしております。	ご相談を受けた後の経過を聞いたり、さらに困りごとや悩みが出た時にもフォローができるように支援をしていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		事業所移転前には実施しております。どのような流れにするか、会の内容として何が良いのかは今後考えていく必要があります。	事業所移転前には保護者会を行いました移転後にまだ実施できておりませんので、来年度機会を設けていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	事業所の対応として不備があった際には、すみやかに管理者への報告、迅速な対応をそれぞれ行っています。	苦情が出ないような仕組み・見直しをしていながら、保護者の方にもご理解いただくことを事前に丁寧に説明していきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月通信・活動の様子写真をデータで送付しております。長期休前にはイベント詳細もデータまたは紙でお渡ししています。	データでの確認が難しい方、不便に思う方は紙での配布を行っていますので、引き続き対応していきたいと思っています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報の取り扱いに関して同意書も必ずいただき、該当する書類・データは外部に漏れないように保管しております。	引き続き個人情報の取り扱いには十分に配慮しながら、トラブル等に発展しないよう慎重に管理いたします。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		ご利用開始後は直接お話できる機会も少なからずありますので、LINEやメール等で状況を聞きつつ、必要に応じて助言を行います。	児童も保護者もまずはどういった人なのかを話しながら、人間性・特徴…等を見ていきそれぞれに合わせた配慮の仕方考えます。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		地域の方参加型の行事は行っていません。	他事業所と合同で行事を行ったり、交流を深められるような機会を作りたいと考えます。	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		熱中症・食中毒・事故関連のお知らせや呼びかけを行い、いずれに関しても対応できるような体制・準備を行っています。	周知していくことと、発生を防いでいけるような整備を今後も行っていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		避難訓練は事業所移転後に1度避難経路の確認を行いました。	事業所が変わって想定されることが増えてきますので、さまざまな想定での訓練を実施しながら、備えをしっかりと行っていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		ご契約時にシートの提出をお願いし、新たに服薬が開始したり増えた場合には、医療機関からの情報を共有しています。	事故やトラブルが起きないように、保護者の方とも情報共有をしながら、状況を確認していきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	ご契約時に提出していただくシート、検査を受けて診断が出た際は連絡をいただき、情報共有をしています。	指示書や証明する書類を今後コピー等させていただきます、責任を持って飲食の提供・支援ができるような体制作りも必要です。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		FC研修の中で必須になっているため、研修の受講ができる仕組みはできています。	セキュリティ対策や安全に支援を行える環境を事業所全体として十分になされているか定期的に確認を行います。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	安全計画に関して詳しく周知しているとは言えないと思います。	緊急連絡先の共有をし、ご家族と連携をとれる体制を作り、不安や心配を与えたり感じないようにしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		支援の中でのことはもちろんのこと、業務上のミス等も支援に直結することがあるためヒヤリハットの作成を行っています。	ヒヤリハットの作成者だけでなく、全体で再発防止に向けた意識を持ち、改善策をしっかりと話し合っ共有していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		FC研修、千歳市で主催する研修会にも積極的に参加をしています。	研修の受講、研修報告書の提出、現状の支援で起こりうることに対しては、支援の見直しをしながら、虐待防止に努めます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	計画への記載は行っていません。やむを得ず身体拘束を行った際には、記録に残し全体で共有し、状況確認を行っています。	身体拘束を行うことが常態化したりしないように、一つ一つの支援に関しての振り返り、支援の状況を確認していきます。	